

## 第4版はしがき

刊行から早くも7年半、おかげさまで第4版を送り出すこととなりました。この間、もともとは京都産業大学法学部の1年生春学期開講科目「法律学入門」のテキストとして執筆した本書が、他の大学で教科書採用していただくなど、新入生向けテキストとして支持されていることは、编者として嬉しい限りです。

今回の改訂は、刑法と民法2つの法律の改正が契機となっています。令和4(2022)年6月17日公布の刑法改正により、従来は、懲役と禁錮の2種類とされていた自由刑が、「拘禁刑」という名称の刑罰に一本化されました。公布の日から3年以内の政令で定める日より施行されます。

また、成年年齢を18歳に引き下げる民法改正が令和4(2022)年4月1日に施行されたことを受けて、欄外コラム「年齢と法」の一部項目を書き換えるとともに、「少年法」と「裁判員制度・検察審査会制度」に関する2本のコラムを追加しました。

第3版はしがきで触れた新型コロナウイルス感染症はいまだ収束の兆しは見え、ウクライナ危機という国際紛争も勃発し、私たちはますます答えのない問題にあふれた社会の中で生きていかなければならなくなっています。法学部に入学した学生が本書を読みながら、「どうしてこう考えるのだろう」「実際の社会での具体例はどんなものがあるだろう」「自分だったらどう考えるだろう、でもそれに対して他の人はどう考えるだろう」と多くの疑問を思い浮かべ、その疑問を手掛かりにして、「社会の中で生じる紛争をルールによって解決に導く」という法学の意義について理解を深めていく。そうして法学部を卒業していく学生が、混沌とした社会を照らす一筋の光として活躍して下さることを、心から願っています。

第3版までと同様、今回の改訂についても、法律文化社の野田三納子さんにお世話になりました。心より感謝申し上げます。

2022年8月

吉永一行